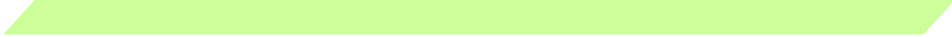


藤崎地区公共施設説明会における 会場での質問・意見



- 高齡化が進む中、公民館的施設はサークル活動でいきいきと活動できるように必要な設備だと思う。なぜ必要な設備を削ってしまうのか疑問である。
- お金がないからといって一概に削減するのではなく、市民の声を取り入れながら市の運営をスリム化し、民間に委託できるところがあれば民間に委託する等の検討をして、ゆうゆう館、藤崎図書館、あずまこども会館といった必要な施設を減らさずに高齡化に対応し、町が潤ってコミュニティが活性化していくように、逆に施設を増やさなければいけない時期にきているのではないか。
- 施設を減らしてしまうと、女性が活躍しやすいようなコミュニティを作る場合に弊害になってくる。それはアベノミクスの反対のことをしていることになり、大変な問題だと思う。
- 例えば図書館の運営については、他市でも例があるように蔦谷に運営を任せる等民間手法を取り入れる、公民館等に関しては、土地そのものを等価交換したり、売却した収益を建物に使う等といった利用も考えられる。
- 企業局がすぐそばにあり、タンクの周りに広大な地面が余っている。こういった空地を活用して、図書館を移転させてはどうか。
- 施設を集約させてしまうと、バックヤードの設備、防災機能の設備、一時的な避難場所として備蓄等の設備を兼ね備えていなければいけないので、新庁舎建設のように、当初の見込み金額よりも多くの予算が必要になってしまうのではないか。
- なぜオリンピックと重なった坪単価が高い時期に、集約した大きな施設を作るのか納得できない。
- 藤崎地域としては施設を廃止するというこの計画案は、白紙に戻してほしい。

- 図書館の貸し出し数が、藤崎図書館は少ないとの説明があったが、子どもの利用率は習志野の中で一番高い。また、地域の高齢者が昼間かなり利用しているが、その人たちは必ずしも本を借りるわけではないため、貸し出し数にカウントされていない。本の貸し出し数ではなく、利用者数を基に計画を立ててほしい。
- 藤崎図書館は歩いて行ける位置にあるため、子どもばかりではなく、高齢者からの残してほしいという要望が多い。
- 図書館の運営費が現在いくらかかっている、もし図書館を町会や地域のボランティア、NPO法人等で運営することにしたらいくらかかるのかといった試算を聞きたい。
- 武蔵野市や浦安市では中央図書館を作って、さらに各地域に子どもや高齢者が集まれる図書館も含めた複合的な組織を作っている。このように文化や子供たちや高齢者を大切にしたいコミュニティ施設を、歩いて行ける距離に配置している市があるのに、なぜ習志野市は全く逆の方向で統合していくのか理解できない。
- 新庁舎の建築費が当初の見込みよりも大幅に増加したことや、奏の杜の小学生の数の推計が誤っていたこと等、市の試算は信用できない。公共施設再生計画では、人口推計を一般的な試算で行っているが、地域の特色を踏まえて試算しないと信憑性がない。
- 過去に市の試算が誤っていたことについて、どういう反省をしているのかを聴きたい。
- 藤崎地区を他の地区と同じように見てほしい。図書館をなくすというのであれば、藤崎の市民からは税金をとらないでほしい。
- 図書館の年間維持費の3600万円程度であれば、職員を何人か減らせば捻出できるのではないか。

- 古くなっている施設を再生するのではなく、藤崎図書館のように新しい施設をなくすというのは、人件費を節約するために計画があるのではないかと感じる。
- 今後公立ではなく、私立で図書館を運営してもいいと思うが、質が落ちないように、また、今まで以上に有効に活用できるような方向で考えてほしい。
- この間の議会での市長答弁で、旧施設を存続する場合と統合した場合の事業費、運営経費の比較をしていたが、それぞれの数値の前提を確認すると、事業費、運営経費ともに2割削減した数値で計算した結果ということであった。いろいろな公表されている資料から、本当に2割削減できるのか検証してみたが、事業費も運営経費も2割は削減できないように思う。
- 藤崎図書館を今まで通り運営するのと、NPO等によって今までと異なった運営をするのではコミュニティの質が変わると思うが、この質の変化についてどのように考えているのか。
- これから大久保地区公共施設再生についてワークショップをやっていくと言っているが、統廃合を前提としたワークショップは藤崎地区にとっては何の意味もない。藤崎地区の人たちとこの図書館を残すためにはどうしたらよいかということを別個に検討する場を設けるべきである。
- なぜ藤崎図書館を廃止するのか聞かせてほしい。
- 藤崎図書館廃止後の残ったスペースの活用について、市は一切お金をかけないと言ったが、同じ税金を払っていてなぜ差別されるのか。100%残せとは言わないが、市が一銭も出さないとされると話が前に進まない。
- 大久保地区公共施設再生計画の素案を提示する前に、統廃合の廃止される側の藤崎地域には先に話をするべきだったのではないか。

- 今日のみなさんの声を聴いて、持ち帰って検討する材料にしてほしい。
- 藤崎図書館の廃止なんてありえない。今議論しているのも、これからどうするのかを議論しているだけで決定ではない。
- 藤崎は公共施設や子どもが遊べる場所が少ない。同じ税金を払っているのに還元されていないと感じる。
- 青年館を自治会に任せられると、いずれ修理ができなくなったらそれでおしまいになってしまう。このような状態で藤崎の人たちはコミュニティをどこで持てばよいのか。
- 藤崎図書館の機能が集約される大久保までは歩いていける距離ではない。
- 資料の中に、なぜこのようにするかという理由を明確に入れてほしい。
- このプランを完成した後のサービスレベルが実際にどうなるのかという評価がされていないのではないか。
- 学校の複合化の話について、学校は存続するのだから我慢しろと言われていたような気がして、その点について納得ができない。
- 複合施設ができる大久保の地域はとても便利になるが、藤崎は不便になる。それでいて税金は大久保の地域にたくさんかけられるのが納得いかない。税金を公平に使ってほしい。
- お金がないと言いながら、市庁舎に110億円もかけた理由がよくわからない。また、このお金の出どころについてはどうなっているのか。
- 公共施設の利用について有料化している市町村があるが、習志野市では、今後有料化を検討しているのか。
- 以前市庁舎を建設するという話があったが、もしその時に建っていたら10億円くらいは浮いているはずである。施策の失敗ではないか。

- 藤崎図書館を廃止することについて、幼い頃から本を読むことでいじめ問題の解決や学力の向上に役立つと思うが、市はどう考えているのか。
- 藤崎に40年住んでいるが、ほとんど変化がない。市の方ももっと頑張っ取り組んでほしい。
- 子どもが一番利用している藤崎図書館が、どういう役割を果たしているかわかってほしい。
- 本を貸し出していなければ利用者数としてカウントしていないようだが、図書館に行って調べものをしたり、読みたい本をよんだり、新聞を読んだり、そういう人たちがたくさんいる。藤崎図書館を地域のコミュニティとして残してほしい。
- 税金を払っているのだから我々のいうことを市は聞くべきだ。我々は納税者として、行政は住民の声を聴いてくださいとお願いしているのではなく、聞けと言っているのだ。
- 廃止するということを前提にせず、地域の人は何を考えているのか、どういう風にしたら残せるのかということ、同じ共通の土台に立って議論をすべきである。
- 藤崎図書館を残して、大久保の図書館を充実させればいいのではないか。
- 財政的なことや新しい施設をたくさん作るのも無理だということは重々わかるが、やはりその地域に根差した徒歩で行ける図書館が必要である。
- 藤崎図書館は耐久性が十分あるのになぜ廃止になるのかが理解できない。
- 大久保図書館を充実させて、集約させれば立派な図書館ができると思うが、それは小学校高学年以上の子どもたちが必要とするものであって、赤ちゃんから小学校低学年に必要なのはお母さんと一緒に手を引きながら行く図書館だと思う。
- 予算の件で、習志野市の市民が納めている税金以外に、外部から獲得している費用がどのくらいあるのか教えてほしい。

●将来的に藤崎小学校に公民館などの機能を集約させて、コミュニティの中心になるという話があったが、本当にサークルや発表会ができるような施設になるのか。子どもたちに校庭を解放していないような藤崎小学校で、本当に一般の人たちに開放できるような状況になるのかという不安がある。

●具体的な青写真をもって、話し合いの場を設けてほしい。